

# 経営比較分析表（令和3年度決算）

栃木県南那須地区広域行政事務組合（事業会計分） 那須南病院

| 法適用区分 | 業種名・事業名 | 病院区分    | 類似区分          | 管理者の情報     |
|-------|---------|---------|---------------|------------|
| 当然財務  | 病院事業    | 一般病院    | 100床以上～200床未満 | 非設置        |
| 経営形態  | 診療科数    | DPC対象病院 | 特殊診療機能 ※1     | 指定病院の状況 ※2 |
| 直営    | 11      | -       | ド透訓           | 救臨へ輪       |
| 人口（人） | 建物面積（㎡） | 不採算地区病院 | 不採算地区中核病院     | 看護配置       |
| -     | 9,335   | -       | 第2種該当         | 10：1       |

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

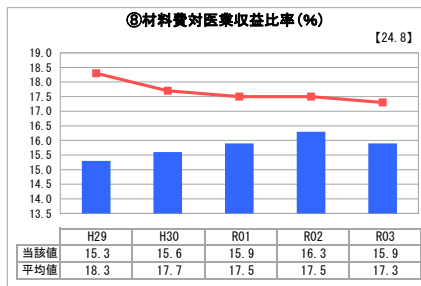
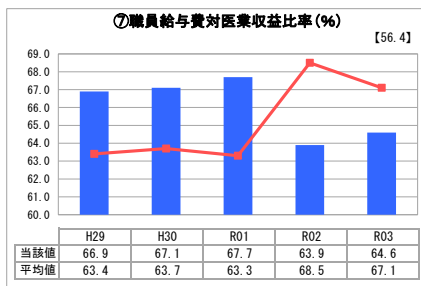
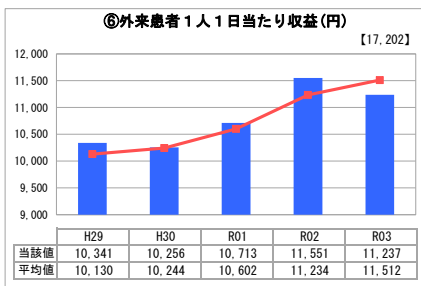
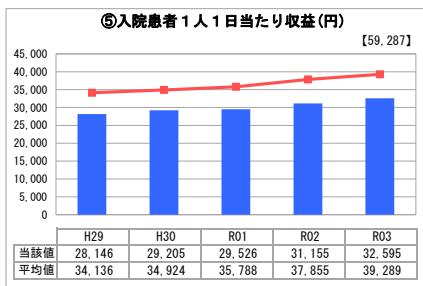
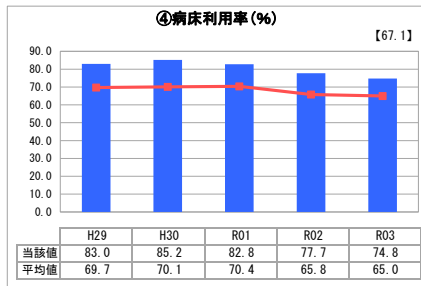
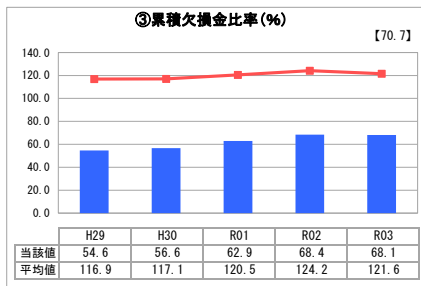
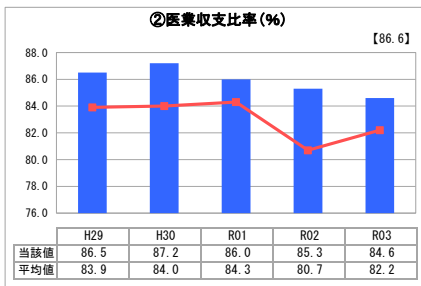
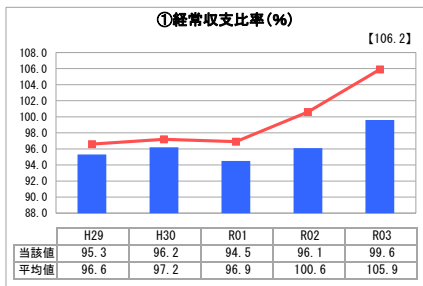
※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

| 許可病床（一般）   | 許可病床（療養）   | 許可病床（結核）      |
|------------|------------|---------------|
| 100        | 50         | -             |
| 許可病床（精神）   | 許可病床（感染症）  | 許可病床（合計）      |
| -          | -          | 150           |
| 最大使用病床（一般） | 最大使用病床（療養） | 最大使用病床（一般+療養） |
| 94         | 44         | 138           |

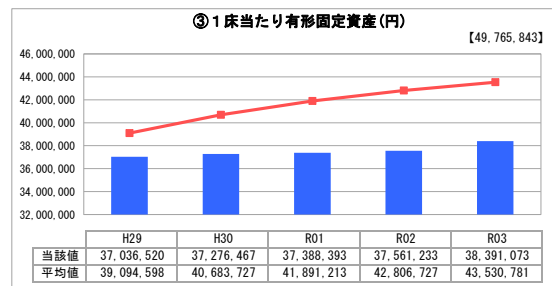
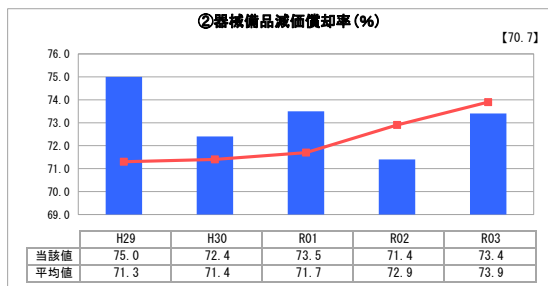
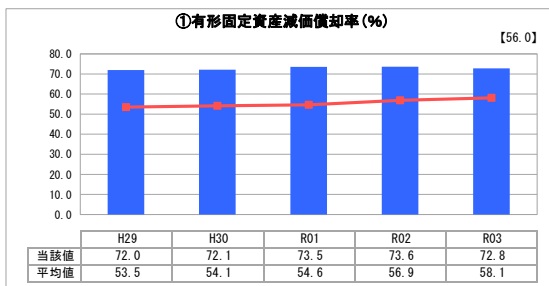
**グラフ凡例**

- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
- 【】 令和3年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



※「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。

## 公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）

| 再編・ネットワーク化 | 地方独立行政法人化 | 指定管理者制度導入 |
|------------|-----------|-----------|
| -          | -         | -         |
| 年度         | 年度        | 年度        |

## I 地域において担っている役割

当院は地域住民の強い要望により開設された経緯があり、住民のニーズに合った運営が行われるべきと考えている。南那須地区で唯一の二次救急医療機関としての役割が重要であるが、同時に地域医療全体を支えるセンター的な役割も担っている。今後も引き続き、以下の役割を担っていく。

- ①年365日24時間対応の救急体制の維持：二次救急では他に病院がないことから、当院のみで1年365日24時間の対応を行っており、また地域内に夜間休日診療所がなく在宅当番医制であることから、夜間の一次救急も当院が担っている。地域住民の安全を守るため、これは維持していく。
- ②-き地医療を含めた地域医療提供体制の維持：近隣の中核病院まで30kmあるため、日常的な病院診療を地域住民に提供していく。
- ③在宅医療推進のための各事業への参画・支援：高齢化が著しい地域で在宅医療は地元医師が担っているが、それをサポートする体制を強化していく。
- ④人工透析医療体制の充実：地域外に通院している透析患者の負担を考慮し、充実させていく。

## II 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

新型コロナウイルス感染症の影響により、前年度と比較すると入院延患者数は1,542人（1日当たり4.2人）の減、外来延患者数は2,707人（1日当たり12.3人）の増となり、病床利用率は74.8%で、2.9ポイントの減となった。経常収支比率は3.5ポイントの増となったが、新型コロナウイルス関係補助金等、医業外収益の増によるものであり、医業収支比率については、類似病院の平均値は上回ったものの、前年度比0.7ポイントの減となった。今後も入院・外来患者の確保や病床稼働率の向上等の収入確保対策と経費削減対策に積極的に取組み経営改善に努める必要がある。

### 2. 老朽化の状況について

当院の既存棟（2階建て）は平成元年の竣工から33年、増築棟（5階建て）は平成7年の竣工から27年経過しており、両棟とも建物及び附属設備の老朽化が著しく、大規模な改修や設備の更新が必要な時期に入っている。今後は、病院の運営に支障をきたさぬよう、施設本体や付随する設備、医療機器の計画的な修繕が必要となる。

## 全体総括

当院の立地条件や地域の医療事情、現行の診療報酬体系から見ると経営改善は厳しい状況にあるが、地域の医療レベルを落とさぬことを前提に効率的な経営を目指していく。

- ①病床の稼働率と回転率を向上させるため、関係部署間の調整を図り、効率的な病床管理を行う。
- ②材料費の価格交渉や保守管理料を含めた医療機器の選定、委託内容の見直し等を図り、更なる経費削減に努める。
- ③建物及び附属設備の老朽化により、年々修繕費が増加傾向にあるため、効率的かつ計画的な修繕を実施する。